

令和7年度第5回今治市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和7年11月28日（金）13：30～15：00

場 所 今治市役所 第2別館11階 特別会議室3・4号

出席者

・委員：土居 忠博，窪 仁志，松本 真一，川田 卓哉，佐津間 英樹，

平野 勇夫，谷口 政賀津，赤尾 宣宏，森 貴洋，町田 一益，

仲岡 禎和，丹治 靖代，砂田 篤志，横山 勲，

村上 恵子，松村 暢彦，山本 美恵子，松浦 和仁

（欠席）角石 拓也，正岡 義晶，井川 達也，金尾 憲明，清水 駿，

山崎 昭二，阿部 克也，山本 悟史

・事務局：

地域振興部 地域政策局 地域振興課

村上地域振興部長，村上地域政策局長，越智課長，越智課長補佐（兼）室長，

八塚課長補佐，川崎係長，八木係長

1. 開会

地域振興部長：

定刻になりましたので、ただ今から令和7年度第5回今治市地域公共交通活性化協議会を開会させていただきます。私、地域振興部長の村上といたします。お手元に配布の会次第に従いまして進めさせていただきます。本協議会の委員につきましても、お配りしております委員名簿のとおりとなっております、また、本会は原則公開でおこなうこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、開会にあたりまして今治市副市長土居忠博よりご挨拶を申し上げます。

2. あいさつ

土居会長：

皆さんこんにちは、いつも市政各全般にわたりましていろいろとご協力いただいております。誠にありがとうございます。また、本日は大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。この今治市地域公共交通活性化協議会も本日第5回目となりました。前回、第4回の協議会におきましてご協議をいただいた、伯方島の公共ライドシェアの実証運行が今月の17日から実際に始まっておりまして、大体運行から2週間ぐらい経過いたしました。利用状況も概ね好調に推移しているというふうに聞いておりまして、一応実証実験ということで来年の1月末までの運用になりますけれども、好評であればそのあとどうするかっていうのも今後検討していきたいなというふうに思っております。この伯方島の公共ライドシェアの関係は、毎週5分番組なんですけれども今治市政広報番組というのをやっております。その中で12月の6、7に再来週の土日になりますが、そこでこの公共ライドシェアの特集を取り上げてやりますので、よろしければぜひご覧いただけたらと思います。

さて、もうご案内のとおり地域公共交通大変な状況になっております。その中でも今治市としても地域の足をどのように維持していくかこれまで以上に大きなテーマとして捉えておりまして、できれば来年度しっかりとした組織も作りながら地域公共交通に向き合っていきたいなというふうな思いもございます。また、デジタル化の進行によりまして、MaaSに代表されるような予約決済、こういうものを一体的におこなう移動サービス、これの導入も各地で進んでおります。そうした中で、本日協議いただきます案件、議題のほうにありますように1つ目が地域公共交通確保維持改善事業における事業評価、1次評価についてでございます。そして2つ目になりますが、こちらは今治市内における予約型乗合タクシーmobiの運行についてでございます。こういう新しいもの既存のもの、そしてタクシー、バス、船そういう地域の大切な足となります公共交通につきまして、この協議会におきまして今後とも一体的に検討を進めてまいります。

本日はこの2案件になりますが、どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。冒頭のごあいさつといたします。本日はどうかよろしくお願いいたします。

地域振興部長：

ありがとうございました。続きまして、次第3、議事に移ります。ここからの進行は会長であります土居副市長にお願いいたします。

3. 議事

(議案1) 地域公共交通確保維持改善事業における事業評価(一次評価)について

土居会長：

それでは、早速ですが、議案の第1号に入ります。地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価についてでございます。事務局から説明を申し上げます。

地域振興課長：

資料1-1、1-2を説明

土居会長：

ただいま説明ありましたように、資料1-2の別添のほうを見ていただいたらと思うんですけども、この表にありますように、吉海地域乗合タクシーにつきましては、土日の運行を始めたということで、利用者数は増えましたけども、1便あたりの利用者は目標に達しないあるいは収支率については少し達しないという結果になっております。こちらについてご質問等なにかありますでしょうか。実際に地域でバスを走らせていただいております瀬戸内海交通さん、ご質問でもこういう意見を聞いているという話でもどんなことでも結構なんですけど。

佐津間委員：

私どもがバスを走らせていたときは、1日の利用客が大体4～5人程度だったかと思いますが、この2,447人というのは、バスのときよりかは利用が増えているのかなと思いました。バスを走らせてたときは、土日はほとんど乗られるお客さんがいらっしゃらなかったように記憶しております。その点からも新たな利用が生まれたのかなと感じておりました。以上です。

土居会長：

ありがとうございます。1便あたりの利用者数というのはまだまだ少ないんですけども、全体的利用者数としたらそこそこの数が乗られてるんじゃないかなということで、そういう評価もいただいてますが、この件なにかほか、どなたかお気づきになってる方おられませんでしょうか。

松村委員：

非常に重要な施策だと思っておりますが、⑥の事業の今後の改善点というところで、利用実態に応じた運行水準・方法を検討し、利用者の利便性の向上を図るというのは確かにそうだなというふうに思ったんですが、ご説明いただくときに、利用者数が少ないところを減らしてという話があったように聞こえたんですが、その話とこれはなにか逆行するようなイメージがあります。

地域振興課長：

こちらにつきましては、収支率の部分を勘案してというところにはなるんですけども、実際に利用者がおられるところを本当に減らすのかってところ当然議論になってきますので、そのあたりは利用実態に応じて考えていきたいというふうに考えております。以上でございます。

松村委員：

利用実態に応じてぜひと思いますけども、基本的には、先ほど瀬戸内海交通さんも仰ったように、これまで利用されてなかったような方々が利用されてる可能性もありますので、そうすると単に収支率だけではないようなものが社会政策としての評価ってのもあるのかなと思いますので、そのあたりを十分勘案のうえお考えいただいたほうがいいのかなと。公的負担についてもですね、目標額は490万というのが260万程度に収まっているというような見方もできるかなと思いますので、そういう複合的な観点でこの施策の評価をやっていただけるといいかなというふうに思いました。

土居会長：

この施策っていうのは、これから今治のいろんな地区の交通空白地帯で、あるいはそのバス路線がなくなっていく地帯で非常に効果的な運用をすれば、住民の方の足を守るという意味でも非常に大事な施策だと思うんですけども、一方でタクシーのほうですね。平野委員さんにお伺いしたいんですけども、これを今治、島しょ部も陸地部も含めていろんなところでこういうことが始まってくると、タクシーの運転手さんというか乗合タクシーを運転される方の確保みたいなのはなかなか厳しくなってくるんですか。そのへんどうですか。

平野委員：

この会ができる2年前からそういうふうな会があるんですが、その当時から言っているのが、もう10年したら乗務員がいなくなりますよと。それを必ず述べているのが、いま現状本当に乗務員がいないと、いなくなっているということでございます。バスもそうですが乗務員がいないと。そして、今日の新聞を見てると内子町が晩の7時にはもう閉めると。そういうふうなことになってるんです。というのが、労働時間の問題とか今年愛媛県では最低賃金が1,033円となったので、なにもかもが本当に従業員には気の毒なんです。いま乗務員が増えているのが松山だけ。それ以外のところは全部いなくなっているということで。まずは乗務員が少なかったら少しでも全タクシーとか私らがさせていただいているmobi、ああいうふうに乗合というのがもう理想的な立場かと思います。以上です。

土居会長：

ありがとうございます。もう現場の声は多分そうなんだろうなというふうに思います。私も今日の新聞見て内子町にしてこれかと思ったんですけどね。もう夜間タクシーがなくなるというので、夜間皆さんタクシー呼ぼうにもそのタクシーが走ってないというか、呼んでも来てくれないという状況になるということだったんで、こういうことが今治であちこちで起こってくると大変なことになるなと思ひまして。

平野委員：

いや、今治でももう夜間してる会社は少ないです。本当に少ないです。それに乗務員の年齢

も平均 65 歳だそうですので。

土居会長：

そのあたり谷口委員、県全体のことを見られてると思うんですけど、このあたりどうなんですか。もうどこの地方でもこんな感じになってるんですか。

谷口委員：

先ほど会長が言われた件ですが、まず従業員不足っていうのは全産業の悩みじゃないかなと思います。その中でタクシーとかバス、車を動かす事業につきましても、運転手さんがいる、運行管理する方がいる、運行管理の中でも整備の方もいらっしゃるといけないし、点呼する方もいらっしゃるといけない。すべての産業において従業員不足っていうところがございます。それと労働時間の話も先ほど平野委員から出ましたが、それも然りかなというところがございます。それは愛媛県全体のお話。特に中予地区はそうでもないのかなと、感覚的に松山地区ですね。特に南予が、先ほど内子町もありましたが南予がひどいのかなと。あくまでも愛媛県全体でどうかっていうお話は個別案件はわかりませんが、愛媛県全体にしましてちょっとマイナスイメージなのかなというところがございます。

土居会長：

ありがとうございます。南予の課題は明日の今治の課題でもありますので、そのあたりもしっかりと認識をしながらこの乗合タクシーを進めていきますけども、そういう課題、近い将来の課題というのも非常に意識しながら今後進めていきたいと思っております。ほかにこの件についてなにかご質問等ございますか。

砂田委員：

先ほどタクシー運転手の乗務員不足というのがありましたけども、いまバスの運転手、今治営業所で皆さん何人ぐらいいると思いますか。かつてはですね、平成元年のあたりでは、今治営業所だけで約 130 人の運転手が在籍しておりました。今現在はですね、38 名です。それで平均年齢もどんどん上がってきているというのが実態ですから、今後、地域の公共交通をどうし

ていくかっていうことは、もうバスの運転手の数、あるいはタクシーの運転手の数こういったことを勘案しながらやっていかないと、なかなか組立てができないんじゃないかというふうに思ってます。

土居会長：

ありがとうございます。バスの運転手さんの賃金にしても、ほぼほぼ最低賃金に近いという話も聞くんですが、やっぱそんな感じなんですか。

砂田委員：

これはですね、皆さんご存じのように小泉内閣のときにバスを自由化しました。やはりそこでダンピング競争とか始まりまして、そのぐらいまでよかったんですけども、それから20年ほどもうどんどん他の産業に賃金が抜かれていきまして、もう大体全産業の一番後ろじゃないかというぐらいの賃金なんで、もう最低賃金ぎりぎりちょっと上ぐらいの話ですから、なかなか運転手も集まらないと。かつては、バスの運転士は一定程度の稼ぎがあったということですが、今は責任が重い割に賃金が安いということですので、もう免許取る人自体も少なくなってきました、もうとにかく運転手を集めるのがちょっと厳しいというようなことで、ここ1年8か月ぐらいは運転士の採用がないというようなのが今の実態です。

土居会長：

ありがとうございました。バスの世界も相当厳しいということで今お話ありましたけども、こういうこともあってその結果、地域の足がどんどん細っていくっていうのは非常に憂慮すべき事態だと思います。そういう中で、先ほど乗合いが1つの解決策かもしれないという話もありました。一方で、その最低賃金が今後も上がっていく中で、どんどん運転士さんにお支払いする給料も当然高くなっていかないといけない。そのなかで経営が圧迫されるということもあるかもしれませんので、そのあたり課題としてしっかり持っておきながら、今後もこういう形でいろんな調整をしていきたいと思ってますが、こちらほかにご意見ある方おられますかね。大丈夫ですか。

そうしましたら、いまお話をずっといただきました議案の1つ目になりますが、こちら冒頭

にありましたように、こちらのほうを四国運輸局長さん宛に提出をさせていただいたらと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。そうしましたら、運輸局長に提出させていただきますのでよろしくをお願いします。

(議案 2) 今治市内における予約型乗合タクシー (mobi) の運行について

土居会長：

続きまして、議案の 2 号に移りたいと思います。今治市内における予約型乗合タクシー (mobi) の運行についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

地域振興課長：

資料 2－1 を説明

山口様 (Community Mobility 株式会社)：

資料 2－2 を説明

土居会長：

ありがとうございました。いま山口さんからご説明あったように、11 月から利用料金の値上げをさせてもらって、実際やってみて利用者が大幅に減るんじゃないかという若干心配があったんですけど、いまの段階ではあまり変化はないっていう感じで数字が出てますが、直近でいうとどんなですか。この 1 週間とか。この 11 月中だいぶ終わりかけてますが変わらずいってま

山口様 (Community Mobility 株式会社)：

そうですね。若干数の増減があるのは事実なんですけども、そこまで大幅なという形にはまだなっていないというところでございます。

土居会長：

そういう意味では、今回思い切って値上げをしてみました、利用者の方に受け入れていただいてるという感じでよろしいですか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

そうですね。コールセンターのほうにも大きなお問い合わせはまだ来てないというところでもございますので、そのように受けとめながらよりサービスの改善を図っていければというふうに思ってます。

土居会長：

ありがとうございます。利用者の皆さんの声で mobi 非常に良かったっていう話があって、これは河南タクシーの乗務員さんのマナーが非常に良いという証だと思うんですけども。一方で、私も以前利用したときに多分さわやかさんのほうの車両だったと思うんですけど、運転手さんとお話ししましたが、皆その mobi のほうの運転手にはなりたくないんだと。なんでですか。どうしたんですかっていうと、タクシーのほうに乗っていると、予約が入ったり連絡がない間は随時休憩が取れるんですけども、mobi は結構予約が次から次に入って、mobi の担当に回るともう非常に朝から晩まで休みなしに働かないといけけないので、運転手からはなかなか人気がないんですよって話もあったんですけども、いま河南タクシーさんは本業のタクシーと mobi はどういうふうに使分けをされてるんですか。

平野様（河南タクシー）：

先ほどのご質問なんですけども、弊社は現状 mobi を中心にして乗務をしてるという感じになります。実際私自身も mobi を運転してますし、mobi のドライバー自体は正規の従業員＋アルバイトで回しているというのが現状でございます。実際乗務員の募集なんかに関しても、普段タクシーで募集したらなかなか来ないんですが、mobi のドライバーだと問い合わせがあって、

アルバイトでやらせてくださいというがあるので、アルバイトが中心になってるという現状ではございます。

土居会長：

そういう意味では、平野さんとはあんまり mobi の運転のほうにまわるのが嫌だなという感じではないということですね。

平野様（河南タクシー）：

やっぱり慣れというのももちろんあるんですけども、自ら mobi のほうがいいっていうドライバーを中心にやらせてもらってます。

土居会長：

ありがとうございます。あと一方で、さわやかさんからお聞きしていたのは、予約がなかなか取れないので、もう何回予約しようとしても取れないからもう利用しないみたいな苦情をよくいただくんですよという話を聞いていたんですけども、いま何台で走ってるんですか。2 台ですかね、3 台ですか。

平野様（河南タクシー）：

はい。今日現在ですけども、フルタイムで一応 2 台ぐらい。プラス平日の昼間がメインになるんですけども、一応プラス 1 台。2.5 台というかそういう体制で運行しております。

土居会長：

ということは、あまりいつ予約しようと思っても予約できないという状況ではないという感じですか。

平野様（河南タクシー）：

これはやっぱりどうしてもピーク時間とかもありますので、極端に言えば何台追加してもそういう状態が出てくるというのは出てきますので。

土居会長：

わかりました。ありがとうございます。いま mobi のご説明もありましたけども、この件につきまして、なにかお気付きの点、利用された方でもいいですし、なにかそれ以外でもなんでもいいんですけどご意見等ないでしょうか。ご質問でも結構なんですけども、どなたか。

松村委員：

非常に数値を出していただきましてありがとうございます。15 ページですかね、相乗り率が最近急上昇してるっていうことなんですけれども、相乗り率がこれだけ高くなりつつあるっていうのはどのような原因が考えられるのでしょうか。

山口様 (Community Mobility 株式会社)：

ご質問ありがとうございます。まず、相乗り率が徐々に上がっていくところとして、お客様の認知の部分というところと、あと、相乗りされる時間帯のところで、特に学生さんとか同じ時間帯にご利用される方が多いなというところに対して訴求等をしてきてるというところもあって、そういったところの観点から少し相乗りが増えてきてるのかなというところと。あと、これはどちらかというともどちらかという社長とか皆さまのほうからいろんな乗務員のお声をいただいたところなんですけども、やっぱり学生さんとか日常使いをされてる方が増えてきてるなというところはお話をよく聞いておりましたので、そのあたりで、日常的に使う方々のところでの相乗りが増えてるのかなというふうに捉えております。

松村委員：

そういうような実態っていうのを利用促進であったりとか、こういうように使ったら便利に使えますよっていうような情報なんかを情報誌とかに出してるんですか。

山口様 (Community Mobility 株式会社) :

そうですね。説明会とかさせていただくときにはそのようなお話をさせていただいたりもしてるところでございます。今後もそういった機会をぜひまたつくりながらですね、より利用者拡大のところも図っていききたいなと思ってます。

松村委員 :

相乗り率を上げていかないと先ほどのような問題が出てくると思いますので、ぜひそこは重点的にやっていただければなと思いました。

もう1点なんですが、13 ページのところに利用年齢の割合というのでびっくりしたんですが、10 代とか20 代の割合が結構あるっていうので、おそらく大学生なんかが多いのかなと思うんですが、それ以下っていうところはあるんですか、小、中、高。

山口様 (Community Mobility 株式会社) :

ちょっとそこまでの属性まで取れてないのが事実なんですけども、乗降場所から見るとやっぱり大学が多いというところがありますので、おそらく大学の方が多いのかなというふうに捉えています。

松村委員 :

なるほど。前回去年ですかね、そこでもお話をさせていただいたんですが、子育て政策として mobi の存在価値っていうのがあるんじゃないかなと思ってまして、小学生や中学生が自分で塾に行こうと思ったときに、今だとほとんど送迎っていうので、お母さんやお父さんが夕方一旦帰ってきてそれで塾まで送ってまた迎えに行くっていうことが多いかなと思うんですけれども、この mobi を使えばですね、小学生や中学生が自分で mobi を呼んで、それで行って帰ってくるっていうようなことが十分可能かなと思うので、そういう意味でいうと、お母さん達が定時に帰ってこなくても、定時に帰ってくるのが大前提なんですけども、その定時っていうものが17 時であったり18 時であったりでも十分働けるような環境を整えてあげることに繋がるんじゃないかなというようにことを思ってまして、逆にいうと、これまでの補助金という形ではなくて、子育て政策に対する補助っていうので、例えば10 代、10 代でも小・中学生が mobi

を利用する場合には無料で。ただ、実際は動いてるので、それは今治市の補助金なりが子育て政策の補助金として充当するとかそういうようなやり方なんかもあるんじゃないかなということのを思いましたので、移動困難者っていう話になるとどうしても高齢者であったりとか障がい者の方であったりとかっていうところに注目がいきますけれども、それだけではなくって、いま日本国中ですね、子供ってのを大切にしようっていうような機運が高まってますけれども、そういうような移動の面で支えていくっていうような政策ってのもあり得るんじゃないかなということを感じましたというコメントと半分提案みたいな感じです。

山口様 (Community Mobility 株式会社) :

ありがとうございます。仰るとおりまだまだそういった利用のユースケースに対してのアプローチがまだ不十分なところもあるかなと。私自身も本当に今仰っていただいたケースっていうのは非常に実感してる身でもあるので、ぜひ今治市の中でご連携できるようなパートナーさん含めて検討できればと思いますので、またぜひご相談させていただければと思います。

土居会長 :

松村副会長からのご提案もありました、これ私がチラッと知り合いから聞いたのが、塾通いとか部活の送り迎えいわれるように、サブスクを使ってやって非常に助かってるんですっていう声も結構聞かれましたんで、多分そういう使い方されてる方もポツポツ増えてるんじゃないかなと思ってます。もう1つ松村先生が言われた中で、子育て政策として使うという中で、例えば、今治市としてこれから子育ての皆さんにいろんな形で支援するときに、いかに効率よく配布できるかとか現金を口座に振込むとかいうのではなくて、実証実験を経て今回やってみようとしてるのが、PayPayのポイントで新しく子供さんが生まれたら20万円PayPayポイントをお支払いしますと。それは全国どこでも使えるPayPayポイントじゃなくて、今治市内のお店、しかも指定された子育て用品を売っているお店で使えるポイントを配布するというのをやろうとしてるんですが、mobiはPayPayの支払いってのは可能なんですか。

山口様 (Community Mobility 株式会社) :

はい、可能になりますので、ぜひそういうのも検討できればと思います。

土居会長：

今治で mobi を使った場合、配布した PayPay ポイントでお支払いできると非常に子育てに有効だと思いますので、またそのあたりしっかり連携させてもらったらと思いますので、よろしく願いいたします。それともうひとつせっかく JR の窪委員が来られてるので、駅を降りてラストワンマイルのところで mobi を使ってっていうのもこれからちょっと十分考えないといけないのか、あんまりそれをしてしまうと逆にバス路線とかタクシーの皆さんにご迷惑がかかるのかどうなのか。そのへんも含めて、JR としてはやっぱり例えば今治駅に降りてもらってそこからどっかに行きたいときに、mobi ってのは 1 つの魅力的な方法にはなるんでしょうか。

窪委員：

会長が言われてるラストワンマイル、これは我々も非常に重要だと思ってます。我々の特急列車の車内で事前に QR コードでタクシーを予約できるっていうシステムとかですね、いろんな二次交通について自転車も含めてですが、各モードでお客様が選択肢を持てるっていうのは非常にありがたいと考えております。

土居会長：

ありがとうございました。

ほか、なにかありますでしょうか。大丈夫ですか。それではご意見ご質問等ないようですので、議案の第 2 号になります mobi の運行についてご承認いただいてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、資料 2－1 に協議が調っていることの証明書を運行事業者の河南タクシーさんに交付をさせていただきます。

それでは、以上で本日の議題としては終わりましたが、その他この際ですからなんでも結構です。せっかくですからご意見ご要望等ございましたらなんでも構わないんですけど、なにかございますでしょうか。

平野委員：

清水地区の自治会長もさせていただいているのですが、公民館へ行くのはこの頃億劫なんです。というのが、公民館の縦の通りまでは mobi が来てるんです。そうしたら、清水地区の方が朝倉までは朝倉線がストップしたときに山口あたりまでは乗合タクシーが利用できるんですが、山を越えたらすぐに清水なんです、そこの方が今治では高齢者が一番多い地域になってるんですよ。2番目が吹揚地区あたり。そういうふうになって、mobi をこの清水も走らせてほしいという声をいただくんですが、そういう清水の方だけでも増やす方法はないかなと思いついて。このままだとうちの会社も、乗務員さんも休みがない。油代もたくさんかかると。いま1日平均1台が7000円ちょっとかかるんです。今度この愛媛県がお父さんとお母さんの出身で総理大臣になった高市さんが少しでも地方が良くなるように地方助成金を出すというそういうふうな流れはなかろうかと思って。私も含めて年配の方は本当に歩くのが大変なんです。そういう人らを戦後の昭和15年ぐらいの方までが本当にこのすばらしい日本を作ってくれたんですから、そういう人にお返しをしたいというのが私の腹なんです。以上です。

土居会長：

ありがとうございます。油代については暫定税率がなくなってくれば若干下がると思うんですけど、そのあとじゃあそれでいいのか、さらに地域の足を守るために地方のための交付金とかが来るようであればまたそれも上手に活用していくことも考えていきたいと思います。それでいまお話ありました清水地区の mobi のエリアのことはそれをするための課題とかありますか。

地域振興課長：

mobi のエリアを拡げるとかですね、新しくエリアを作るとかっていう考え方もございますし、例えばの話、現在運行しております朝倉地域の乗合タクシーであったり、玉川地域の乗合タクシーであったりのエリアを拡げるというパターンも地域的にちょっと間に入ってる部分もございますので、そういったところも踏まえてですね、さまざま検討しながら進めていきたいと思えます。

土居会長：

これ進める場合にはどこが一番調整を必要とするんですか。やはりバス会社、タクシー会

社、どこですか。

地域振興課：

現在清水地区につきましてはバスのエリアには入ってませんので、まず、タクシー事業者様との調整、あとは各地域、新谷・四村あたりになってくると思いますけれども、地域との調整が必要になってくるかと思います。

土居会長：

はい、そのへんまた研究させてください。

その他、なにかご意見ございますでしょうか。

4. 閉会

土居会長：

それでは、以上をもちまして、第5回の協議会を終了させていただきます。長時間にわたりまして誠にありがとうございました。